

超音波検査と品質保証



市立函館病院

中央検査部 臨床検査科 主査

平方 奈津子さん

超音波検査は、体の中の様子を調べるために広く行われている検査です。「エコー検査」とも言われ、お腹の赤ちゃんを見る妊婦検診や人間ドックのイメージが広く知られていますが、それ以外にも心臓や血管、乳腺、甲状腺、関節など、さまざまな臓器の診断に活用されています。医師で小説家の久坂部羊さんはある小説の中で「エコーは影絵のようなもの」と表現していますが、心臓や血管などの臓器によっては白黒画面

に赤や青のカラーをのせて血液の流れや速さを見えています。人体に害の少ない高い周波数の音を利用して、ため体への負担が少なく、繰り返し検査ができることも大きな特徴です。最近では装置も小型化し、在宅医療や救急医療の現場でも使用されています。

波検査では、検査を行う人の技術や経験・知識によって見え方や判断に差が出ることもあるため、正確で質の高い検査を行うための努力がとても重要です。そのため近年では、関連する学会や医療機関が中心となり、検査技術の向上や品質管理に力を入れています。講習会や資格制度を通して知識や技術を学び続けるだけでなく、検査機器の性能管理や点検、画像の確認方法を統一するなど、安心して検査を受けてもらうための取り組みが進められています。また、近年ではAI技術活用も進み、より安定した検査も期待されています。こうした取り組みは地域医療の格差を縮め、より多くの患者さんに安全で適切な診断を届けるための基盤となります。

超音波検査は、現代医療を支える頼もしい医療技術の一つです。そして私たちは、超音波検査によって得られる多くの情報を正しく伝えて早期診断・早期治療に役立てるための環境作りを大切にしています。これからも医療スタッフ一人ひとりが学びを重ね、信頼される超音波検査を提供できるよう努めていきたいと考えています。